フィールド風（現場）からの

371

宮田守男

齢を重ねる毎に積極的にやりがいを見つける行動が大切だ

忘年会・新年会は皆が集い、カラオケを楽しむ時期でもある。昭和の流行歌を愛した演出家の久世光彦さんは、歌は二番から先が良い。一番の歌詞は、テーマに沿って、状況や登場人物を描写しないといけない。心情に深く立ち入る「しばれる文句」は、二番・三番にあると東京新聞のコラム筆洗さんが紹介した。

歳を重ねる毎に、地域社会とどの様に合えるかが問われている。全国老人福祉施設協議会の企画した「60歳からの主張」の川柳部門の優秀賞「クラス会お前いくつと聞いたやつ」、入賞作「同窓会マドンナと知り腰ぬかす」、「半端ない・歯がない・毛がない・記憶ない」鏡に映る自分の姿かもしれないこれからの生き方を、歌同様に二番から先が面白いと。そう考えてはどうだろうか。

女優の故・樹木希林さんの言葉「ちょっと疑ってみることが、足止めになる」現状に流されるのではなく、自分の目で見て考え、身の回りの物事に向き合う姿勢が必要だと。これまでの人間関係や職場の堅苦しい時期の心の持ち方を変えて、積極的にやりがいを見つける行動が求められている。まずは、各地で行われる芸能発表会で、恥ずかしがらずにステージで輝く行動から始めよう。特に男性は、これまでの生き方が災いするのか、出演者は女性に偏りがちだ。この一歩がこれからの地域社会での生き方に力になるに違いない。

新しい旅行メディア「トリップエディター」で坂本正敬さんが発信した情報「外国人がわざわざ訪れる、長野県『白馬』が注目を集める理由」で外国人に愛される理由として「自然環境のすばらしさ」、「もてなす側の受け入れ態勢」、「大都市からのアクセスの良さ」、「地道なプロモーション活動の継続」を挙げた。人里から手の届きそうに見える後立山連峰。雪の質、量とも優れている事。長野オリンピックの開催による、世界的知名度の高さ。意外に英語が通じる日本人スタッフの多さと、誰もがフレンドリーだという魅力。的確に情報発信されている。

情報技術の発達に伴い、訪れる多くの方から常時発信される内容は、今後ますます多様化されていくだろう。地域に好感的な情報ばかりでなく、好ましく思えない情報も発信される事を常に意識する事が大切だ。それらに対応する地元スタッフの人材の育成が急務だ。

（信州地域社会フォーラム会員・白馬村森上）

ケーブルテレビ白馬で放映する芸能祭で楽しく発表する出演者は、実に若々しい……